

- ✓ 令和8年2月10日に発生した手取川水質事故に関し、手取川、直海谷川及び、直海谷川周辺の事業場で採取した水に含まれる油の成分について、保健環境センターで分析を行った。

## 【油の成分が確認された水の採取日と地点】

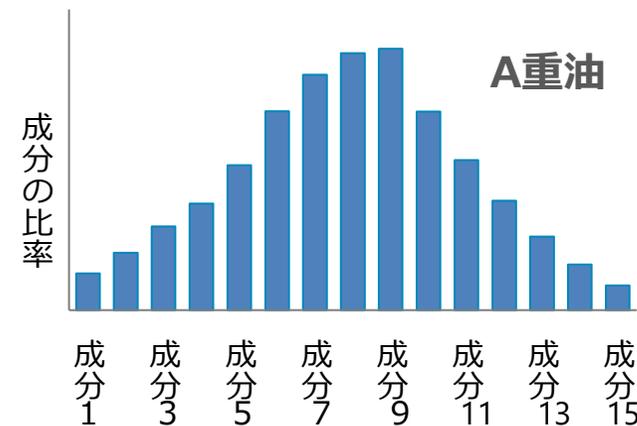
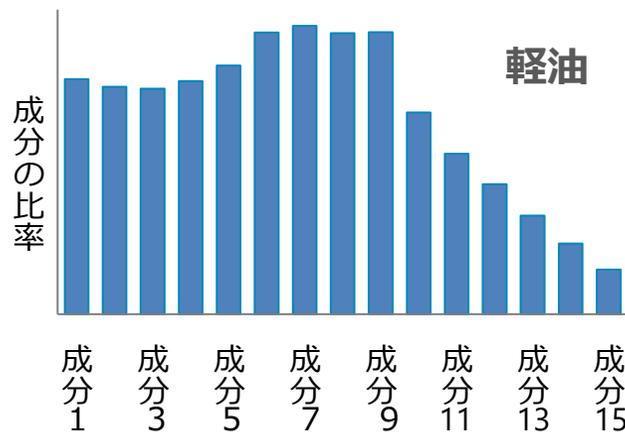
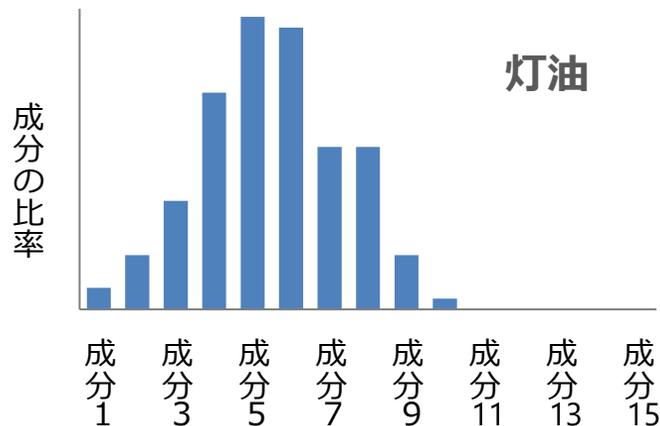
- ① 2/10 手取川 鶴来浄水場取水口
- ② 2/11 " 広瀬大橋右岸
- ③ 2/11 直海谷川 板尾前橋
- ④ 2/13 " 板尾前橋
- ⑤ 2/16 油漏れ事故の発生(2/10)について、2/16に県へ報告のあった直海谷川周辺の事業場内の排水



# 油の成分とは（一般的な説明）

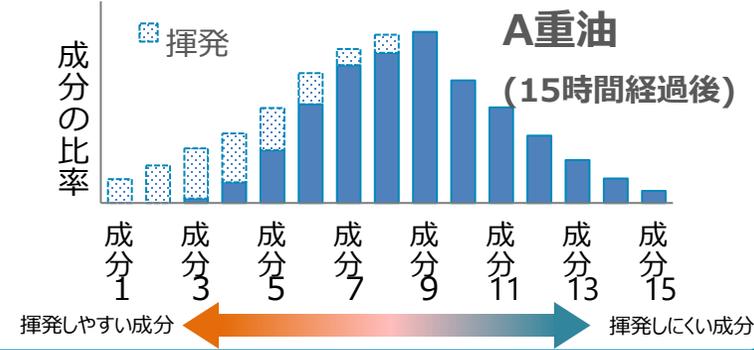
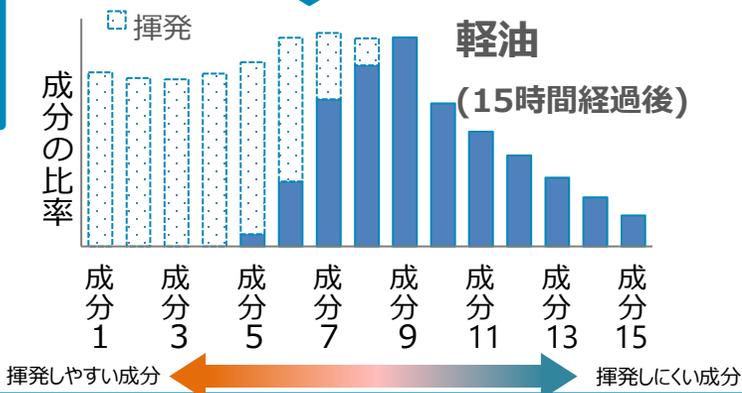
- ✓ 油は、多くの成分※が混合した物であり、ガソリン、灯油、軽油、重油及び機械油など、**油の種類ごとに、その含まれる成分の比率が異なっている。**
- ✓ 今回、水中の油の成分を測定し、成分の比率を比較することで油の種類の特特定を試みた。

※グラフでは、便宜上、具体的な成分名ではなく、「成分1」などと表記



**外気に触れることにより、揮発しやすい成分から徐々に失われ、成分の比率が変化する。**

- ・含まれる成分には、軽くて揮発しやすい成分、重くて揮発しにくい成分がある。
- ・時間、温度により成分の比率の変化の度合いが異なる。

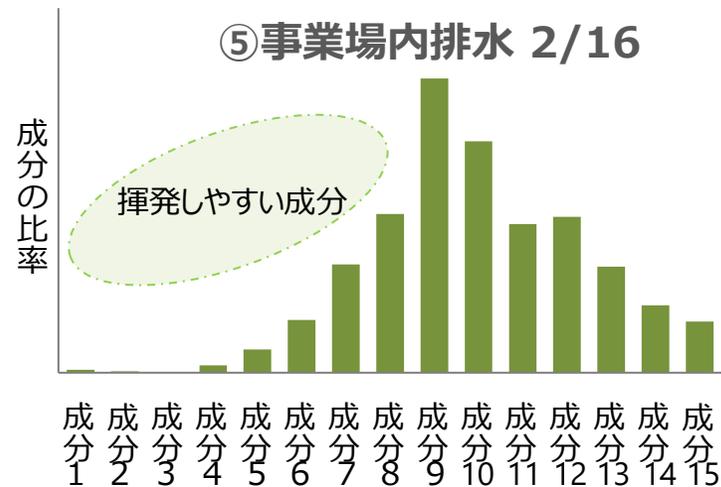
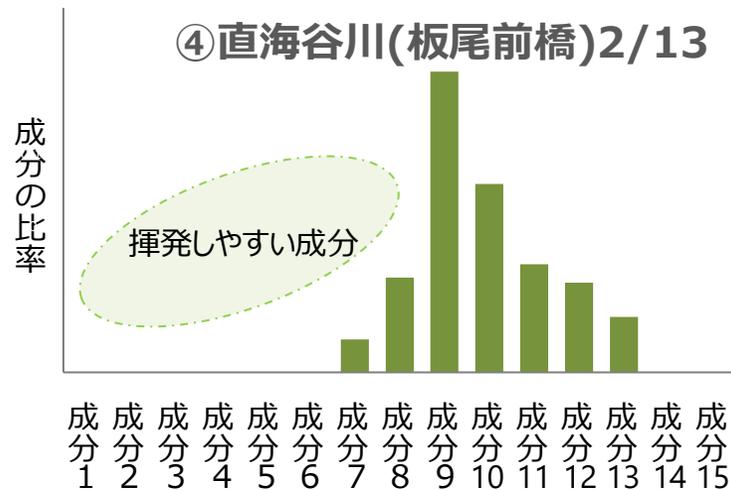
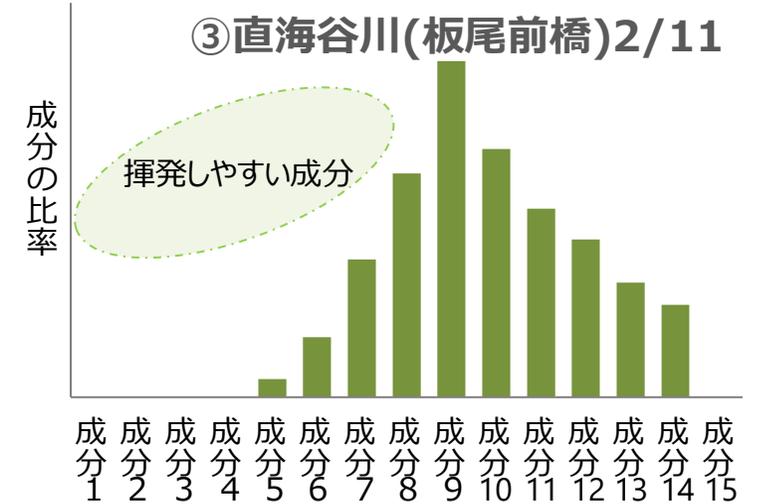
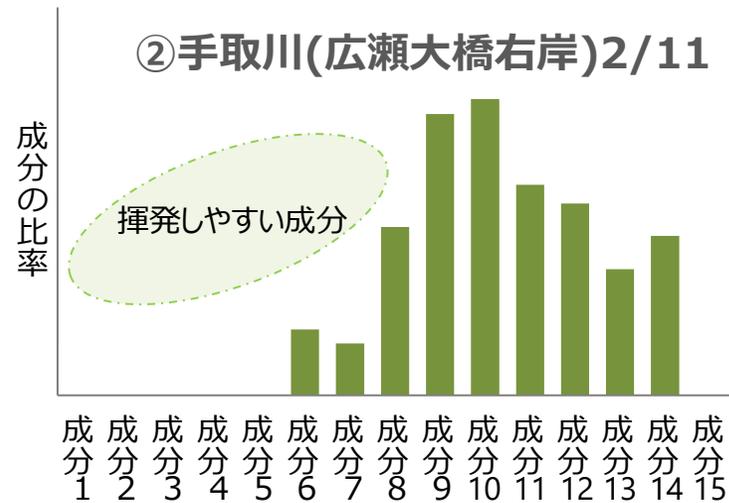
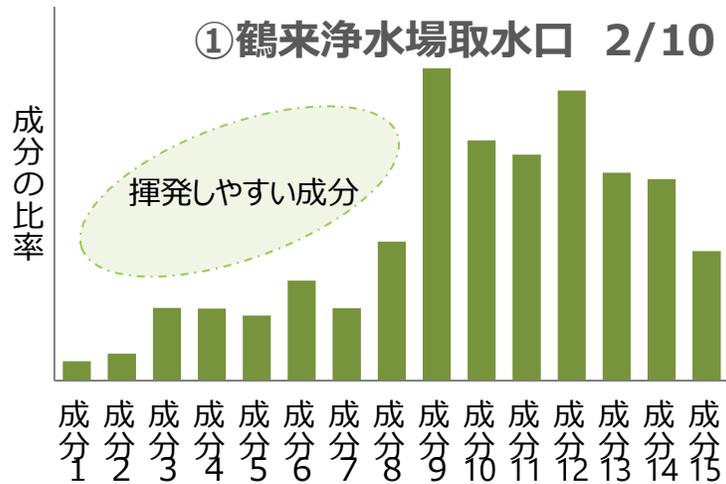


- 1 油種を特定するため、**採取した水**に含まれる油の成分を分析した結果、次ページの①～⑤のいずれの地点についても**軽油又はA重油の可能性はあるが、油の種類は特定できなかった。**
- 2 ①の取水口で採取された水と、⑤の直海谷川周辺の事業場内の排水に含まれる油の成分の比率は、似通っている部分があるものの、**同一の油とは断定できなかった。**

上記の理由としては、**油が外気に触れたことにより、成分の一部が揮発したことによるものと考えられる。**

※取水口上流の手取川及び直海谷川において継続的に監視してきたところ、**2月24日以降は、油臭は確認されていない。**

# 河川及び事業場で採取した水から検出された油について



## 実施内容（すべて完了済み）

1. 給油施設の油水分離槽等の清掃
2. 排水経路上の沈殿池にオイルフェンス・油吸着マットを設置
3. 油含有土壌などの除去・処分
  - ① 油漏洩箇所のお含有土壌の除去・水路清掃
  - ② ドラム缶置場周辺の油含有土壌の除去

県は、白山市、白山野々市広域消防本部及び燃料販売店の関係団体などと連携しながら、事業者や住民に対し、

- ・**事業場においては、油の漏洩防止や適正管理**に努めるとともに、**漏洩した場合、オイルフェンスや吸着マット等**を活用して、**応急措置**を講じること
- ・**家庭においては、ホームタンク等からの灯油漏洩に注意**すること
- ・**万が一流出した場合、迅速に関係機関へ連絡**すること

などについて、今後、**速やかにチラシやホームページを通じて周知**していく。